

2024年度(第14期)事業報告書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

(特定非営利活動法人の名称) NPO法人 福岡被災地前進支援

1 事業の実施に関する事項
特定非営利活動に係る事業

定款の 事業名	事業内容	実施 期日	実施 場所	従事者 の人数	受益対象者の 範囲及び人数	事業費 の金額 (千円)
①災害救援及び 復旧支援事業	実施しませんでした			0名		0
②防災啓発事業	防災ワークショップ 主催	2024/6/29～ 2025/3/22 (計3回)	福岡市	8名	一般市民 10名	2
	防災ワークショップ 及び防災講座 講師受託	2024/6/14～ 2025/2/1 (計6回)	福岡市 大牟田市	9名	一般市民147名 中学生28名	131
	ウェブマガジン掲載	2024/10/31～ 2024/11/14 (計5回)	オンライン	1名	一般市民 多数	3
	福岡県災害ボランティア 活動広域調整訓練企画・ 運営委員受託	2024/6/17～ 2025/1/20 (計6回)	福岡市	1名	行政/社協職員 一般市民 多数	13
③被災地支援及び防 災に関する情報提供 及び人材育成事業	Facebook 投稿	2024/6/5～ 2025/3/17 (計11回)	オンライン	3名	FB ページ閲覧数 多数	0
	訓練・研修受講	2024/5/21～ 2025/3/5 (計15回)	福岡市・春日市・ 熊本市、他 及びオンライン		会員17名	10
④被災地支援及び 防災ネットワーク 構築事業	全国情報共有会議	2024/7/29～ 2024/8/7 (計3回)	オンライン	3名	会議参加者 及び被災者：多数	0
	県・県社協との連携	2024/4/26	オンライン	1名	県・県社協職員・ Fネット幹事 15名	0
	F ネット内の連携	2024/6/4～ 2025/2/28 (計15回)	オンライン 福岡市	15名	会議参加者 多数	5
	企業・その他との連携	2024/5/28～ 2025/1/23 (計6回)	福岡市・ 北九州市	6名	子ども食堂 22件、他	12

2 事業の詳細

(1) 災害救援及び復旧支援事業

2024年度は7月下旬に秋田県や山形県などで、また9月下旬には能登半島で豪雨災害が発生しましたが、私たちは残念ながら遠方の被災地を継続的に支援する力がないため、それらの地域で活動することはありませんでした。私たちは日帰りで支援が可能な福岡県内や近隣の被災地での活動を基本としています。幸いなことにその地域では災害ボランティアセンターが設置される程の災害は発生しませんでしたので、年間を通して活動はありませんでした。

(2) 防災啓発事業

私たちが従前から取り組んでいる3種類の防災啓発ワークショップのうち、2024年度は「風水害24」の開催実績はありませんでしたが、他2種類の開催実績は以下の通りでした。

- わが家の災害対応 WS 4回(うち主催1回) 参加者64名
- クロスロード 2回(うち主催2回) 参加者7名

これらのワークショップは、NPO出前講座として福岡市のホームページにも掲載していただいております。ありがたいことにそれを見てご依頼をいただくケースが増えてきています。

https://www.city.fukuoka.lg.jp/shimin/koeki/life/NPOgazissisurudemaekozaanosyokai/demaekoza_bosai.html

その一方で、私たちが主催するワークショップでは参加者数が伸び悩んでおり、開催告知のやり方のみならず、開催の方法など全般にわたって見直す時期が来ていると認識しています。

その他に、①災害ボランティア未経験者や初心者を対象にしたボランティア講座、②防災士養成講座の1コマ(自主防災活動、等)、③難病関係者向け防災ワークショップ、という多様な防災講座の講師を県内各地からご依頼いただき務めさせていただきました。



災害ボランティア未経験者講座@福岡市



防災士養成講座@大牟田市

私たちがいつも利用させていただいている福岡市NPO・ボランティア交流センターあすみん様からは、そのウェブマガジン *asumin note* に災害ボランティアに関するコラムを掲載する機会をいただきました。

https://note.com/asuminnote/n/n7e164442047e?magazine_key=m967e64f9d6bb

また、福岡県からは「災害ボランティア活動広域調整訓練 企画・運営委員会」の委員を受託し、福岡県内で広域災害が発生した時にボランティア活動をどう調整するかという課題に対し、県・県社協・民間ボランティアの三者が連携して、情報共有会議やその前段となるコア会議をより実効性のあるものにするために様々な話し合いを行い、会議のシミュレーションを実施しました。

(3) 被災地支援及び防災に関する情報提供及び人材育成事業

私たちは Facebook を使って継続的に情報を発信していますが、2024 年度は福岡県内や近隣で大きな災害がなかったこともあり投稿数は 11 回にとどまり、それが影響しているのか、フォローしてくださっている方が 1,148 名と前年から 4 名の減となりました。閲覧数は Facebook の仕様がかわってしまい、確認できなくなりました。

<https://www.facebook.com/zenshinshien>

一方、団体のホームページは更新が滞っており、運用方法だけでなく全体のデザインや構成など、様々な面で改善が必要と認識しており、取り組み始めています。

<https://zenshinshien.jp/>

また、私たち自身の被災地支援や防災に関する知識や技量の向上のため、様々な研修や訓練に継続的に参加しています。2024 年 10 月には熊本市で「ぼうさいこくたい 2024」が開催され、様々な新しい知見や防災グッズなどに触れるとともに、日本各地で活躍する防災ゲーム「クロスロード」の仲間たちと経験値の交換を図りました。

(4) 被災地支援及び防災ネットワーク構築事業

7 月下旬に秋田県や山形県などで発生した豪雨災害被災地の支援のために、全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)が主催した全国情報共有会議やその前段となるコア会議にオンライン参加し、大規模災害における広域の情報共有会議の運営について学びました。

県・県社協との連携については、2023 年度は定期的に行っていた連携会議の主要参加者が「災害ボランティア活動広域調整訓練 企画・運営委員会」のメンバーとほぼ重複していたため、連携会議としての開催は年度初めの 1 回にとどまりました。

2021 年設立された福岡県域の災害中間支援組織である「災害支援ふくおか広域ネットワーク(F ネット)」において、当団体理事長の吉田は設立当初から副会長を務めてきましたが、2024 年 6 月開催の幹事会において副会長を退任して幹事の一員となりました。そして、2025 年 2 月の定期総会ではその幹事も退任しました。2024 年度中に開催された計 17 回の幹事会・総会の内 15 回には出席しましたが、幹事退任により今後は F ネットの活動に割かれる時間が減り、福岡被災地前進支援としての活動に集中していくつもりです。それでももちろん、災害中間支援組織として F ネットの役割は重要なので、今後も一加盟団体として連携を維持していきます。

企業との連携はまだ細いですが、継続的に取り組んでいくつもりです。2024 年度に特筆すべきは子ども食堂との連携です。F ネット加盟団体の紹介で、福岡県子ども食堂ネットワークからの依頼を受け、福岡県内各地の 22 の子ども食堂への食材提供作業を手伝わせていただきました。災害ボランティアの活動範囲は多岐にわたるため、災害支援を専門とはしていない団体の専門性を活かした活動が大きな力になることがあります。子ども食堂を運営しておられる団体は、災害時に炊き出し支援や子ども支援などに活躍していただけるポテンシャルをお持ちなので、平時から子ども食堂と連携しておく価値はあると考え、この作業を引き受けました。

最後に、事業報告ではありませんが、決算における事業別損益の計算方法を今年度から変更することにしましたので、ここにご報告します。2023 年度までは、携帯電話代とオンライン会議システム(Zoom)の年会費を中心とする通信運搬費は、全額管理部門の経費として計上していましたが、NPO 会計に詳しい税理士の方にご相談の上で、2024 年度からは(事業部門固有の経費を除き)各事業部門と管理部門の収益額で按分して計上することとしました。